

## 排尿障害と鍼灸治療

### ー 過活動膀胱について ー

東日本支部 菜の花鍼灸治療院  
土井 のり子

今回の講演演題、「排尿障害と鍼灸治療ー過活動膀胱についてー」をご覧になられて、う～ん、臨床に役立つのかなと思われた先生が多かったことと思います。

確かに、過活動膀胱を主訴として鍼灸院にいらっしゃる患者様はほとんどいらっしゃらないと私も思います。しかし、今回の講演のために色々調べてみると、過活動膀胱は40歳以上の12.4%に見られ、全国で推定810万人の患者さんがいることがわかりました。(2003年、日本排尿機能学会の調査より) 実に8人に1人がこの症状に悩まされていることとなりますが、医療機関を受診しているのは2割程度です。

国際禁制学会では「過活動膀胱とは尿意切迫感を主症状とし、通常は頻尿や夜間頻尿を伴い、場合によっては切迫性尿失禁を伴う症候群」と定義しています。

頻尿による外出時の不安感や行動制限、夜間頻尿のため睡眠不足となる。精神的にイライラしたり、自信を無くして落ち込んだりする人も多く、仕事や家事に支障をきたしている人もいと報告されています。このような症状の患者様と鍼灸院で出会うことは多くありませんか。もしかすると尿の問題を抱えて誰にも相談出来ずに一人で思い悩んでいるかもしれません。

過活動膀胱に対する治療の第1選択肢は抗コリン剤の服用ですが、口渇などの副作用も多く、頻尿・尿失禁には有効であるが、尿意切迫感の改善には十分ではないといわれています。今回の講演では尿意切迫感を改善する鍼治療の臨床研究論文を紹介します。抗コリン薬と鍼治療を併用することで潜在的に抱えている過活動膀胱の悩みを解消することに寄与出来るのではないかと考えます。

過活動膀胱の基礎知識を整理し、薬の作用機序についてお話した後に鍼治療の臨床研究論文の紹介と過活動膀胱診療ガイドライン [第2版] に記されている鍼治療の文献を紹介します。最後に稚拙ながら、これらの文献を日常の臨床でどのように取り入れているかをお話したいと思います。